芝山
十一編上
文庫
鄙俗
種員作
國貞画
外題西五國忠
十編下

十一編上
文庫

丈四緑
鄙傳
十一編
上冊

種夏作
國貞画

彩昇堂梓

一

水の清澈なるも塞で流ざれば子子を生じ五穀の生を育も鱧て食をしい脾胃を損ぜ一日あらざるもかなわぬ物さへ程ゝ失ふ時ハ如此権化の作と称せらるゝ源氏といふ書もきはめつくハたくい鱧飯より遥まさりて看官の御腹中をや害んと思ハい殊更華も進まぬ硯の水ハ釘倒虫の生ずを遅々もる夜延業坐眠がち殆る燈下の机上ふるいつゞ紙ばいろ〳〵ふ流石ゑ目覺てうと〳〵きと光君の仰せる蹴鞠の段も遠〳〵ん一編四冊の四本がゝを布連くる鞠場砂さ〳〵〳〵と綴他人の手際のさまを羨くゆかいなり

嘉永癸丑睦月　柳下亭種員

山名持姿入道宗入
明石の家を捨て山中に隠遯する体

唱食 梅千代丸
仝 菊千代丸

若紫上
曲亭主人

送り良等逆を許夏禹
宗入と見
西明石領
須磨領

安達太郎極

此國の宗人が
山名播磨
守持安
とのゝ
頂の夢中
の様を
画る

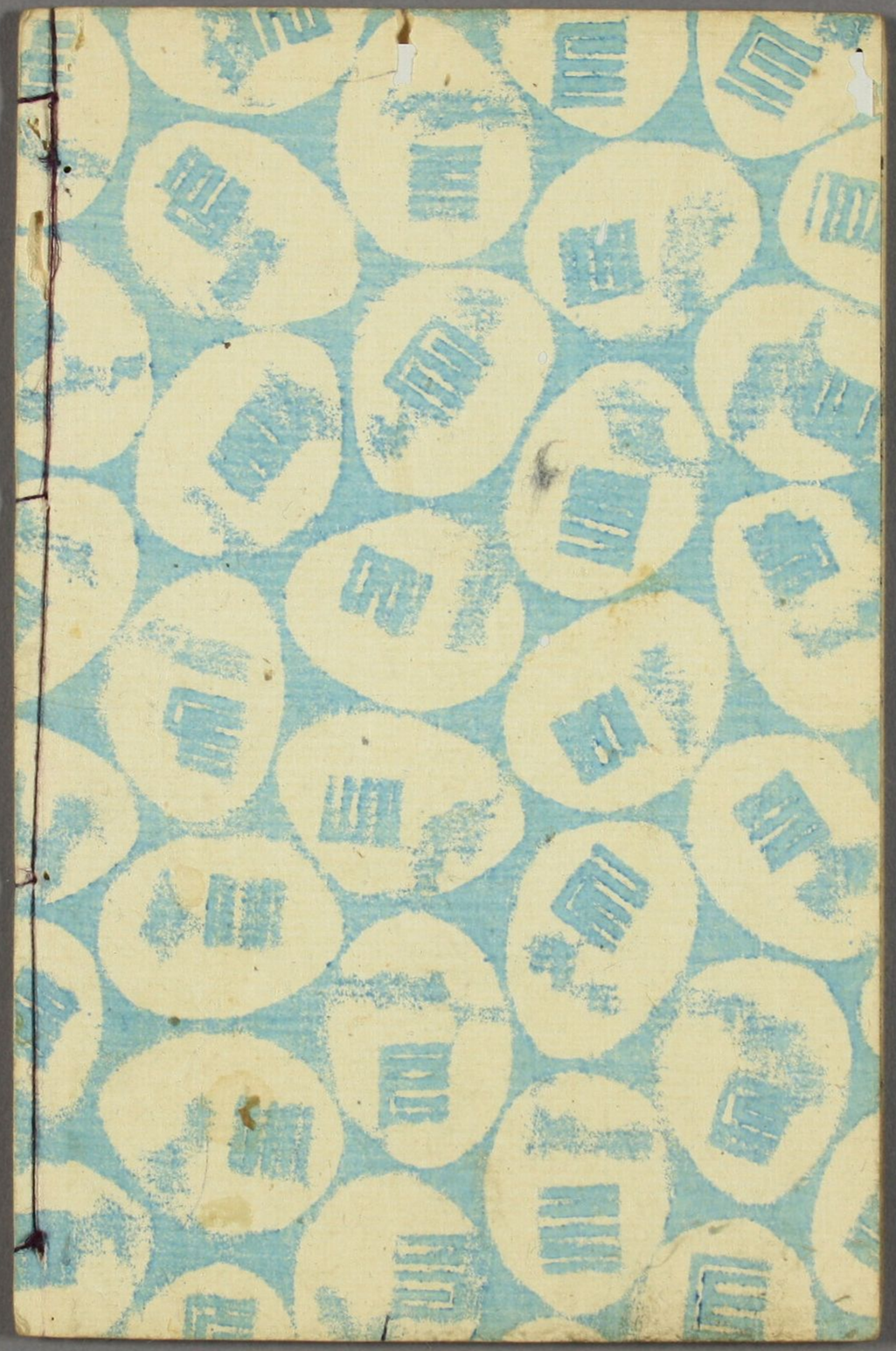
其由緣部伊

十勇士尾形

耐夜鐘

比奈乃都大内譚

地本問屋



鄙俤縁

種員作

國貞画

十編下

春遊この人形

七福神

十二篇

下冊

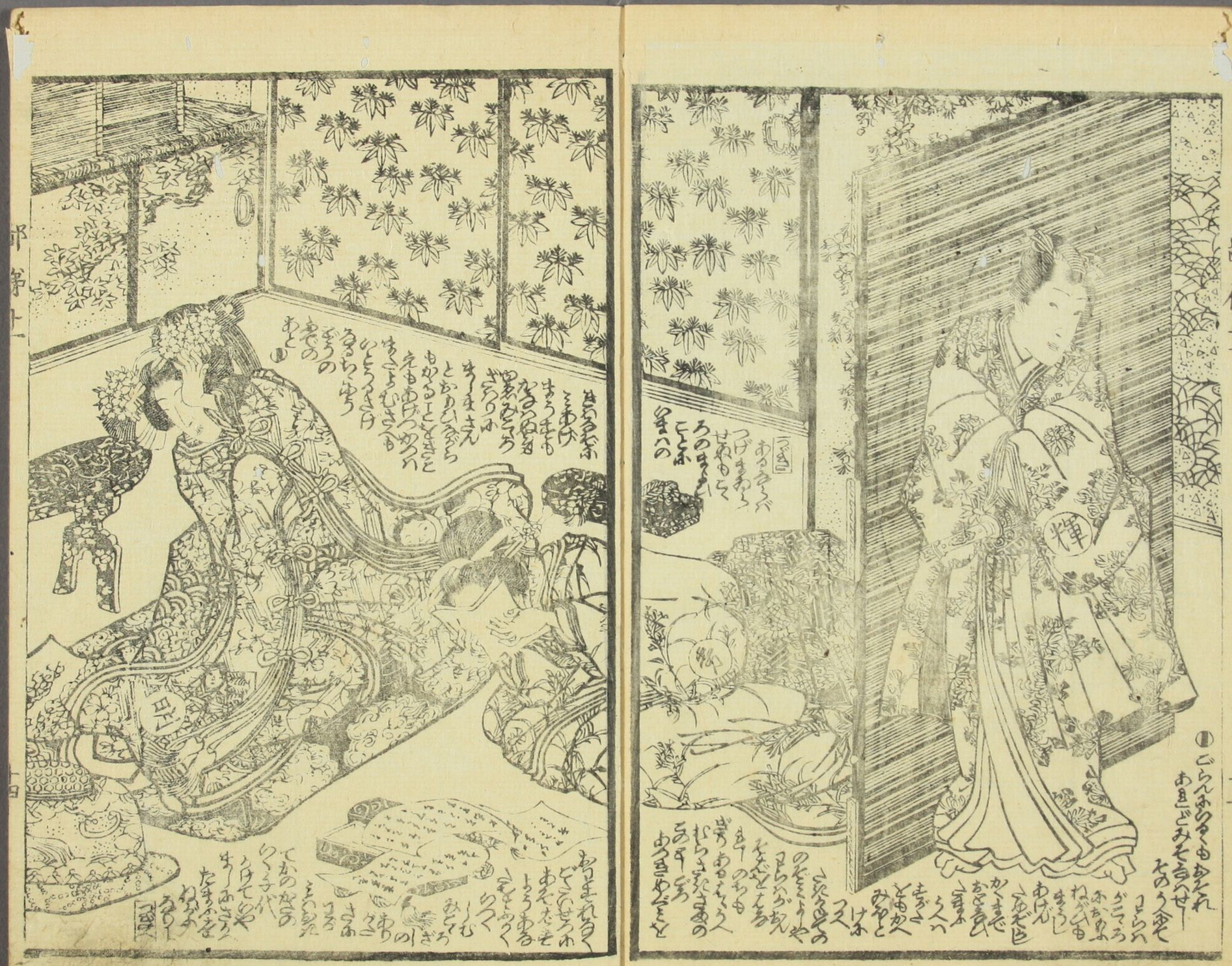
鈴昇 製本

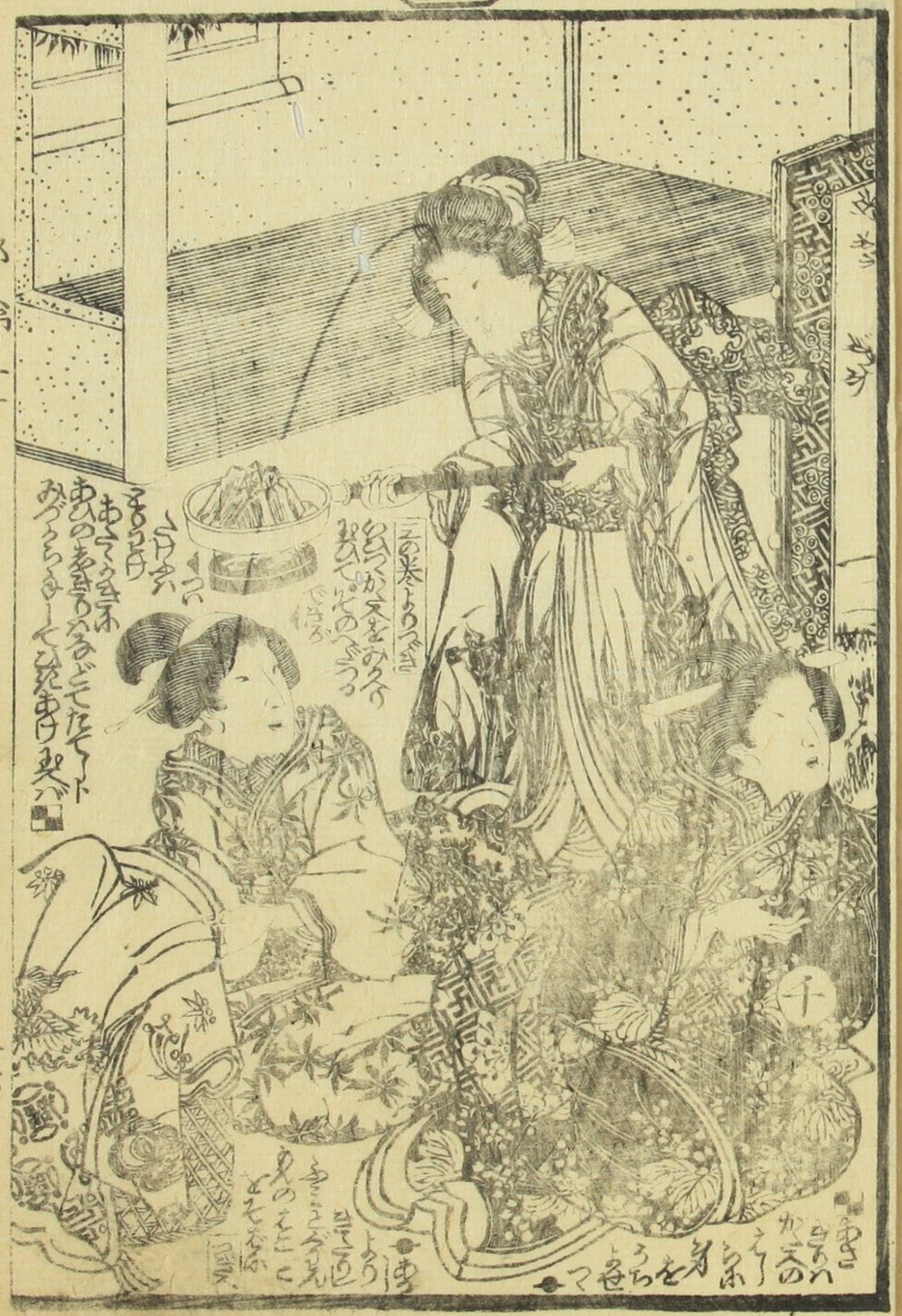
早稲田大学図書館

三の巻より

さらに人きちゝのありとそもたちまちに
おろもめさらべつぐくゆつぐるもたりしまあり
そなれ月のいる山ひとりあしてくらべと
それとあるくあのさざめるけしのひ
まもなくこのちのきりもれかくまぬしよ
ちゝとそのひきりもれかくまぬしよ
ぐくたるびきもよそのうるめあさを
あれるふまぐゆかやうけさあくとよが
ちくさまあとともさざめるきとの
かやうさをいれともあるひかり
てらくまからぬさうち
とり

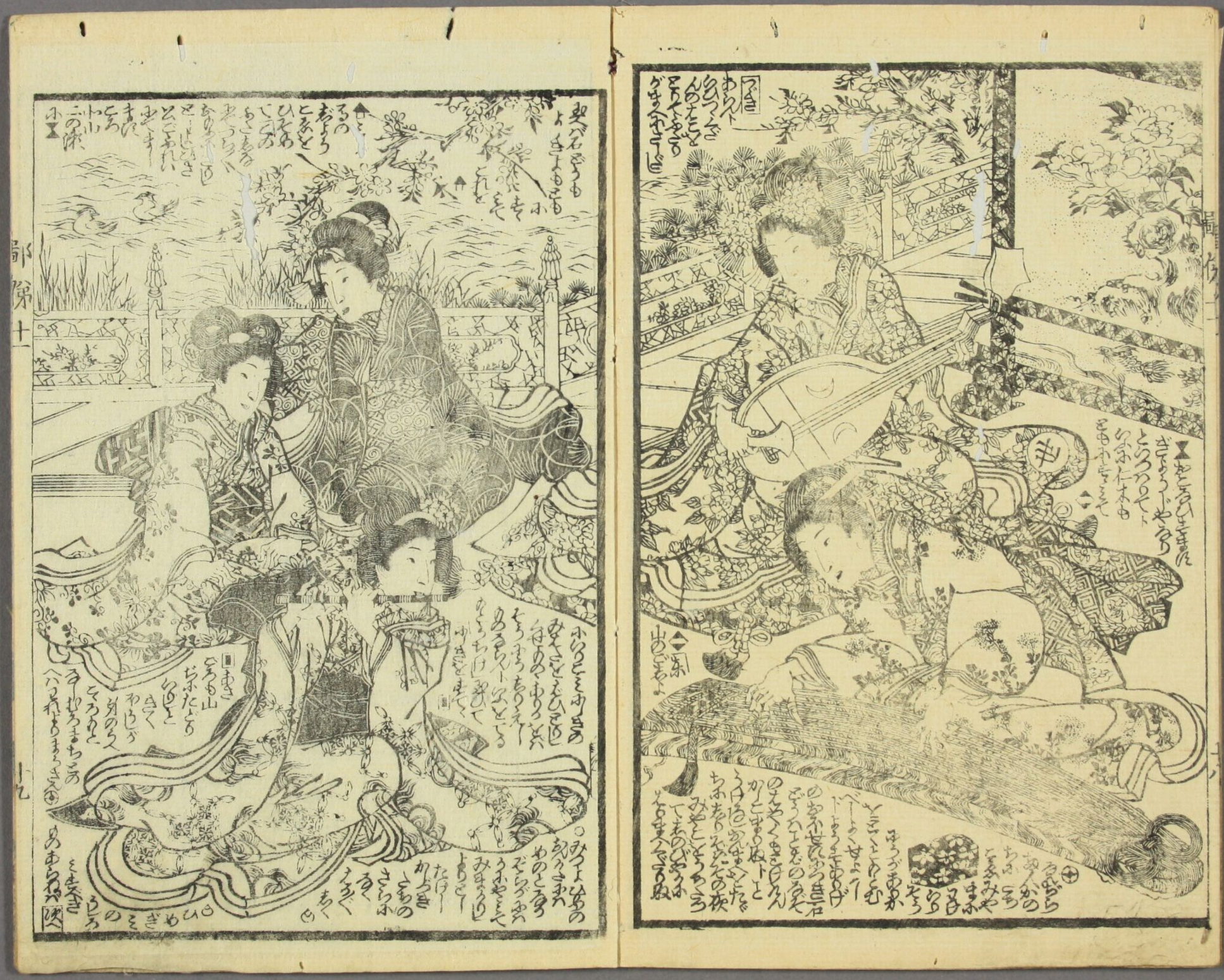
あそこけんみちく
うんやうらかのまち
ぞうさまトかき
ふびけいきーそんうまれ
さらうのれとまれどせぞう
るるるるぞふてとものやうそ
やくふ あそこみてとしが
よろくふかかをあげ あるべ
うきを世の塞公神さのがるとやう
ふかさとえのとやうふぎるとふ





馬
庫

庫
馬



柏

種員作國貞画

清書
谷金川

柏屋柏太郎

錦昇堂販